

報新事薬

平成25年(毎週1回木曜日発行) 昭和33年8月4日 第三種郵便物認可・薬事新報社© 8月22日 第2800号

S M O N A セミナー
自己免疫疾患編

協同組合臨床開発支援ネットワーク(SMONA)は7月28日、東京都中小企業会館でSMONAセミナーCRCキヤリア継続研修―自己免疫疾患編を開催した。自己免疫疾患領域(関節リウマチなど全身性疾患を中心に)の臨床試験(治験)に必要な知識、CRC業務の留意点、業務の事例など専門性を高めるための研修会。CRCのほか治験、臨床研究に関わる専門職を中心に100名以上が受講した。このところ、専門領域研修は受講希望が多く、

研修会ニーズが高まっている。

教育講演「GCPの生い立ちと変遷」
作広卓哉氏(一般財団法人臨床試験支援財団理事)、基調講演「全身性自己免疫疾患の治療と評価法―病態、疾患の特徴、診断方法、治療方法、薬効評価方法など」山田秀裕氏(聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授)が行われた。

そのほか、業務編として「自己免疫疾患領域におけるCRC業務とその役割」柏熊留里子氏(川崎市立多摩病院治験管理室師長、日本臨床薬理学会認定CRC)、「関節リウマチにおけるCRC業務で経験した事例について」五十里剛氏(株医療システム研究所)、「関節リウマチ治験に携わるCRCの心構え」渡辺麻見氏(株総合臨床サイエンス)の講演が行われた。

受講後の声より

山田氏の講義について
「医師からの講義を直接受ける機会は少ないので勉強になった」

「病態を早期に確定診断する重要性について興味深かった」

柏熊氏の講義について

「疾患特有の症状に合わせて気をつけること、また、薬剤投与の工夫を伺うことができた」

CRCの発表について
「逸脱の具体例を示していただき、この領域の注意点がわかった」